

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2026年 第27週（6月29日～7月5日）

今週のコメント

～手足口病～ 手洗いの励行と排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「手足口病 警報レベルを超える」

第27週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は2,825例であり、前週比16.9%増であった。定点あたり報告数の第1位は手足口病で以下、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱の順で、定点あたり報告数はそれぞれ5.96、4.18、2.13、1.85、0.52である。

手足口病は前週比55%増の1,079例で、北河内14.14、南河内7.07、中河内6.79、堺市6.35、大阪市北部6.31であった。5ブロックで警報レベル開始の目安となる5を超えていた。

感染性胃腸炎は12%減の757例で、南河内8.73、中河内6.05、北河内5.55である。

ヘルパンギーナは前週比75%増の386例で、大阪市北部4.23、泉州3.15、北河内3.09であった。

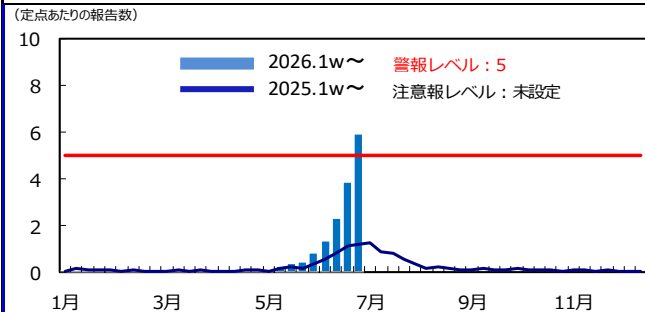
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は4%増の335例で、北河内4.55、中河内2.21、南河内2.07である。

咽頭結膜熱は17%減の95例で、中河内1.37、南河内0.67、大阪市西部0.60であった。

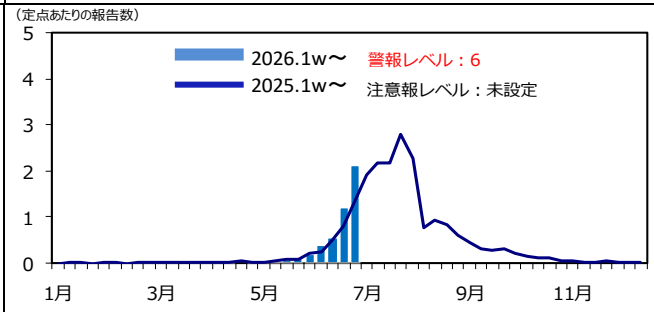
新型コロナウイルス感染症は18%増の285例で、定点あたり報告数は1.00である。北河内2.39、泉州1.18、南河内1.17、大阪市南部1.00、中河内0.90であった。

急性呼吸器感染症（ARI）は10%増の10,141例、定点あたり報告数は35.58である。南河内48.13、北河内47.22、大阪市北部42.20、中河内40.00、泉州36.85であった。

手足口病



ヘルパンギーナ



※2025年第15週以降、定点医療機関数の変動により、警報レベル・注意報レベルの数値は参考値

表 1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2026年 第27週6月29日～7月5日）

第27週の順位	第26週の順位	感染症	2026年第27週の定点あたり報告数	前週比増減	2025年第27週の定点あたり報告数	2026年第27週の年齢別患者発生数最大割合値
1	2	手足口病	5.96	55%増	1.18	1歳_46%
2	1	感染性胃腸炎	4.18	12%減	5.38	1歳_14%
3	4	ヘルパンギーナ	2.13	75%増	1.39	1歳_36%
4	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.85	4%増	1.49	5歳_16%
5	5	咽頭結膜熱	0.52	17%減	0.76	1歳_31%
参考		新型コロナウイルス感染症 (急性呼吸器感染症定点報告疾患)	1.00	18%増	1.91	1-4歳_27%
参考		急性呼吸器感染症 (急性呼吸器感染症定点報告疾患)	35.58	10%増	37.41	1-4歳_47%

各疾患の詳細は、[大阪府感染症情報センターホームページ（定点把握疾患、疾患別情報、病原体検出情報）](#)をご覧ください。

第27週のコメント

～レジオネラ症～ 大阪府では2026年第27週時点で71例であり、過去5年の同時期で多い

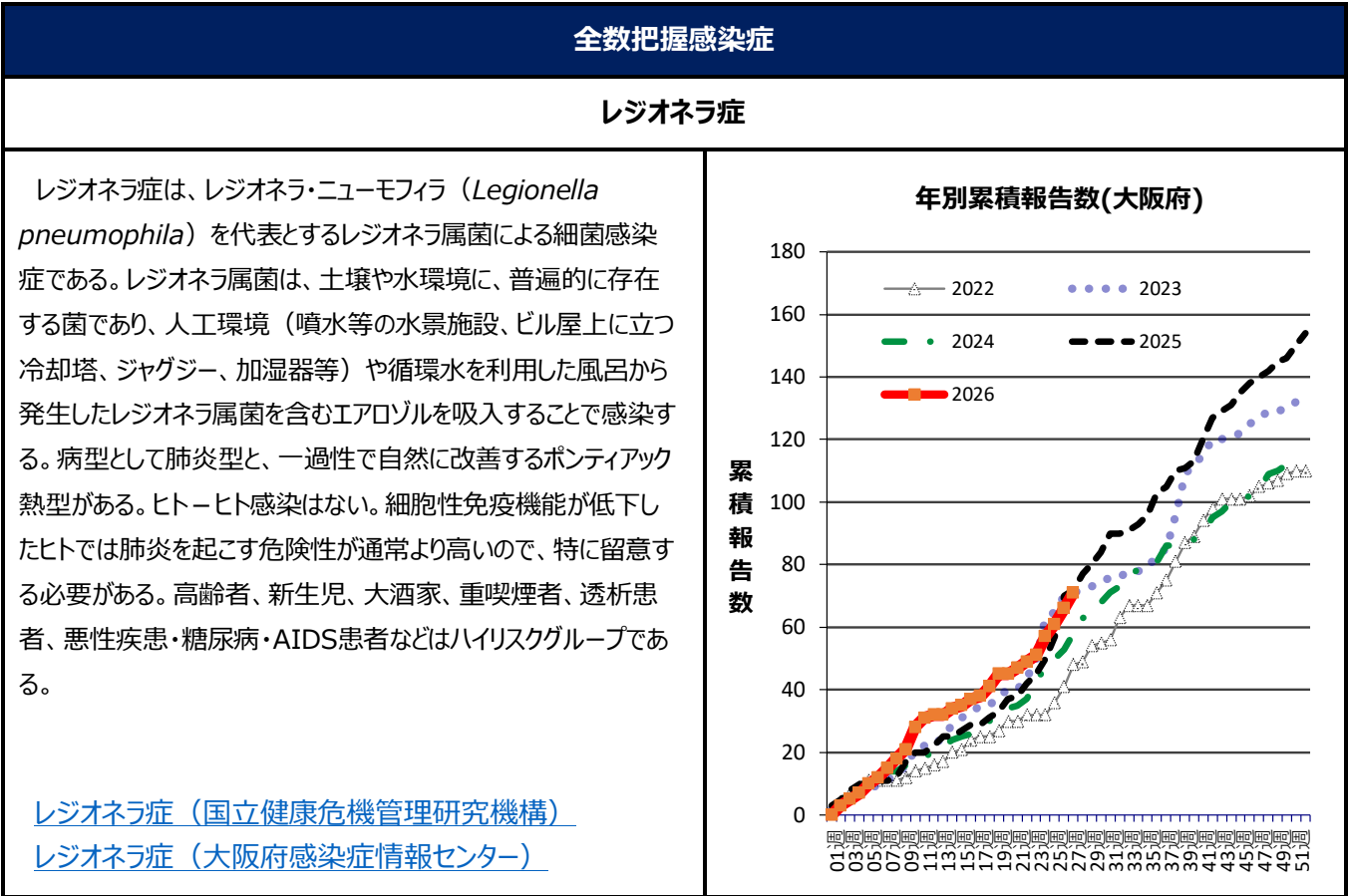


表 2. 大阪府全数報告数（2026年 第27週6月29日～7月5日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
(報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。)

	疾患名 () 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告 数	豊 能	三 島	北 河 内	中 河 内	南 河 内	堺 市	泉 州	大阪 市	府内 累積 報告 数
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	15		1	2	1			1	10	79
4 類感染症	レジオネラ症	5	1	1	1					2	71
5 類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1			1						51
	侵襲性肺炎球菌感染症	3		1						2	148
	水痘（入院例）	2		1					1		39
	多剤耐性緑膿菌感染症	2								2	23
	梅毒	15		1		1	1		1	11	646
	破傷風	1								1	3
	百日咳	2				1			1		176
結核 (2026年5月分)	結核 新登録患者数：44名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 12名) (府内累積報告数 337名、内 肺・喀痰塗抹陽性 106名)										

(2026年7月7日 集計分)